

落の地名第五節民俗五伝説第六節民間信仰三神祠堂

宇 年表(古代・中世・現代)

三郷村図

丸林 一之 第二編歴史第二章歴史時代第五節民俗六方言(一)

中田 茂 第三編現代社会第一章政治・戸口第一節政治二温村

宮沢 大弥 第三編現代社会第一章政治戸口第一節政治(小倉村・

中田 儀一 第三編現代社会第二章経済第二節農業二生産(果樹)

明盛村)第二節戸口第四章教育・文化第一節教育三義

中村 太一 第二編歴史第二章歴史時代第六節信仰四石神仏

務制施行以後の就学状況と本村の就学対策(三)

中沢 金寿 第二編歴史第二章歴史時代第五節民俗三結婚付婚姻

第三編現代社会第二章経済第二節農業二生産物畜産

小沢 幸雄 第三編現代社会第二章歴史時代第五節民俗三結婚付婚姻

・蚕業

野本 幸雄 第三編現代社会第四章教育文化第一節教育一寺子屋

務台 増美 第二編歴史第二章歴史時代第二節近世一政治と社会

第二節文化一文学

二産業と経済三農業4入会と山論5村の生活三村史

日比野 允夫 第三編現代社会第四章教育・文化第二節文化2美術

挿話 近世資料 年表(近世)

樋口 昇一 第二編歴史第一章先史時代一旧石器時代二縄文時代

村上 隆英 第三編現代社会第二章経済第八節経済関係諸問題一

藤松 鴻之輔 第一編自然的环境第三章生物第二節植物

開拓三農地改革第六章治安・国防・消防第一節警察第

二木 節郎 第二編歴史第二章歴史時代第一節古代・中世付古銭

二節国防付戦没者名簿(温村、明盛村)

二木 義次 第三編現代社会第七章人物誌

宇 弥二郎 第二編歴史第二章歴史時代第六節民間信仰三神祠堂

降旗 保美 第三編現代社会第二章経済第八節経済関係諸問題三

山口 博 視 第一編自然的环境第三章生物第一節動物3三郷村に

農地改革

分布するトンボ・アブ

降旗 和夫 第一編自然的环境第一章地形と地質

山田 瑞穂 第二編歴史第一章先史時代三弥生時代四古墳時代及

降旗 ふじゑ 第三編現代社会第四章教育・文化第三節教育関係諸

山田 芳弘 第三編現代社会第四章教育・文化第一節教育三新制

団体八婦人会

びそれ以降

古屋 とよ子 第三編現代社会第四章教育・文化第三節教育関係諸

中学校四青年の教育

団体八婦人会

吉沢 明佑 第三編現代社会第四章教育・文化第一節教育二小学

降幡 一章 第三編現代社会第二章経済第二節農業二生産物(特

校(戦前)

目次

緒言.....一

例言.....三

執筆者及び分担.....五六

第一編 自然的环境

第一章 地形と地質.....三

第一節 山地の地形.....三

1 鳴沢川流域の地形(三) 2 黒沢川流域の地形(四) イ 北黒沢川

(四) ロ 黒沢の滝 3 尾根の地形(六)

第二節 山地の地質.....七

1 鳴沢川流域の地質(一) 2 北黒沢川流域の地質(二) 3 断層

(一〇) 4 室山(三) 5 堆積岩(三) イ 粘板岩(三) ロ 硬砂

岩 ハチャート ニ火山岩 ホローム層

第三節 平地の地形と地質.....六

1 黒沢川扇状地(二) 2 梓川の河岸段丘面(八)

第四節 三郷村のおいたち.....六

1 三郷村の基盤岩(一) 2 三郷村の古生層山地の誕生(二) 3

フォッサ・マグナの形成(二) 4 松本平の形成(二)

第二章 気 候.....三

一 安曇平の気候のあらまし(二) 二 月月の気候(三)

三 較差の大きい気温(二) 四 乾いた空気(三) 五

第三章 生 物.....七

第一節 動 物.....七

1 黒沢山周縁の哺乳動物(三) イツキノワグマ(七) ロタヌキ

ハキツネ ニテン ホイタチ ヘアナグマ トオコジヨ

チモモンガ・ムササビ リニホンザル ヌイノシシ ルカモン

カ オノウサギ ワ山ネコ 2 三郷村に分布する鱗翅目(蝶)

(四)イヒメギフチョウ(四) ロジャコウアゲハ(四) ハモン

キアゲハ ニツマグロキチョウ ホヤマキチョウ ヘオオムラ

サキト コヒオドシ チアサギマダラ リオオルリンジミ ス

ウスイロオナガシジミ ルウラクロシジミ オムラサキシジ

ミ ワヒメヒカゲ カアオバセセリ 3 三郷村に分布する蜻

蛉目(トンボ)と双翅目(アブ)(五) 1 トンボ(五) 2 アブ(五)

第二節 植 物.....七

1 村内の喬木(五) イクワ(五) ロイチョウ・クロマツ・カヤ

ハアカマツ ニシダレヒガン ホノダフジ ヘハリギリ 2

住吉神社の叢林(五) 3 住吉神社叢林の植物目録(五)

第二編 歴史

第一章 先史時代

- 一 旧石器時代(三三) 二 縄文時代(三三) 1 草創期・早期(三四) 2 前期(三四) 3 中期(三六) 南松原遺跡の概要(三六) 位置と環境(三六) (2) 発見された遺構(三七) 1号住居址(三七) 2号住居址と特殊遺構 3号住居址 4号住居址 5号住居址 第6号住居址 第2号特殊遺構 7号~14号住居址 (3) 出土遺物(三七) ① 土器(三七) ② 石器 ③ その他 (4) まとめ 4 後期・晩期(三〇) 5 三郷村の縄文時代の遺跡と遺物(八七) 三 弥生時代(三七) 1 弥生町代の概要(三七) 2 南安曇郡の弥生遺跡(八七) (1) 町田遺跡(八七) (2) 等々力遺跡 (3) 窪窪下遺跡 (4) 柏原遺跡 3 三郷村の弥生遺跡(八七) (1) 黒沢川右岸遺跡(八七) (2) 堂原遺跡 (3) 堂屋敷遺跡 四 古墳時代及びそれ以降(八七) 1 古墳時代の概要(八七) 2 南安曇郡の古墳(八七) 3 三郷村の古墳(八七) (1) 北小倉第一号古墳(八七) (2) 北小倉第二号古墳(八七) (3) 浄心寺付近古墳 (4) 富士塚古墳 (5) アルプス学園前古墳 (6) 平福寺付近古墳 4 古墳時代の生活遺跡(八七) 山の越遺跡(八七) 5 考古学上からみた奈良・平安時代の三郷村(八七) (1) 堀尻遺跡(八七) (2) 中沢遺跡 (3) 室山南遺跡 (4) 若宮遺跡 (5) 堂原遺跡 (6) 上総屋敷遺跡 (7) 栗の木下遺跡 (8) 三柱神社東遺跡 (9) 三角原遺跡 (10) 丁田遺跡 (11) 中村遺跡 (12) 上手遺跡 (13) 小路遺跡 (14) 道下遺跡

第二章 歴史時代

- 第一節 古代・中世
 - 一 古代の村と牧(一〇三) 1 安曇郡と郷(一〇三) 2 古幡牧(一〇三)

- (2) 事件の発端(一八三) (3) 農民の強訴(一八三) (4) 主謀者の処刑(一八七) (5) しまつ(一八七) 騒動の後始末(一八七) 善兵衛女房の遺産 善兵衛女房の余生 加助の墓 加助らの供養塔 5 寺院と神社(一九二) イ寺院の役割(一九二) ロ村の寺院(一九二) (1) 長尾山平福寺(一九二) (2) 二木山長徳寺 (3) 奥国山真光寺 (4) 満珠山竜峰寺 (5) 見石山歡喜寺 (6) 仏花山法因寺 (7) 真縁山生善寺 (8) 修南山善導寺 (9) 一仏山浄心寺 (10) 金峰山泉光寺 (11) 無量山瑠璃光寺 (12) 戸隠山善福寺 ハ神社の特色と役割(一九二) ニ村内の神社(二〇〇) (1) 住吉神社(二〇〇) (2) 熊野神社 (3) 諏訪神社 (4) 諏訪三柱神社 (5) 伍社宮 (6) 神明社 (7) 津島社 (8) 貞享義民社 (9) 諏訪神社 (10) 八幡社 (11) 諏訪神社 (12) 白山神社 二 産業と経済(二〇七) 1 検地(二〇七) イ天正・慶長検地(二〇七) ロ寛永検地(二〇九) ハ慶安検地(二一一) ニ田畑入下げ検地(二二四) ホ慶安・寛文・延宝年代の百姓土地所持状況(二二七) ヘ検地帳から見た田畑の分布状況(二三三) ト天明二年二木村の再検地(二三三) 2 租税(二三三) イ税の種類(二三三) ロ年貢諸役金の収納(二三三) ハ屋丁役・鍵役(二三三) ニ極難の家と救恤(二三三) 3 農業(二四三) イ耕地の増加状況(二四三) (1) 小倉御林新開のための用水堰掘立願(二四三) (2) 上野原新堰掘立願 (3) 小倉御林新開願書 ロ一軒の所持高の変遷(二四五) ハ農業労働力の確保(二四五) ニ一筆の水田面積と農耕用具(二五五) ホ稲の品種畑の作物(二五五) ヘ田方の石灰(二五五) 4 入会と山論(二五九) イ入会(二五九) ロ小倉お林(二六二) ハ山論(二六二) (一) 神明原争論(二六二) (二) 長尾上の原入会争論(二六四) (三) 小倉北山一件(二六六) (四) 鳥羽・中萱原境争論(二六六) 5 村の生業(二六七) イ村の店商(二六七) ロ酒造業(二六七) ハ紺屋業(二六八) ニ水車業(二六九) ホ無尺(二七〇) ヘ養蚕(蚕種業)(二七二) 三 村史挿話(二七二) 1 播隆上人の消息(二七二) 2 御情竿と草餅祭(二七四) 3 殿様のひよ鳥見物(二七六) 4 お祭りの喧嘩(二七七) 5 一日市場の大火事(二七七)

第二節 近世

- 一 政治と社会(二五五) 1 組と村(二五五) イ組役人(二五五) ロ村役人(二五五) ハ五人組(二五五) ニ村の住民(二五五) 2 村政と戸口(二六〇) イ宗門人別改(二六〇) ロ戸口の推移(二六〇) ハ村定(二六〇) ニ御触書と御用金(二七〇) ホ縁組(二七〇) ヘ奉公人(二七〇) 3 交通の発達(二七三) イ安曇平の主要道路(二七三) (1) 千国道(二七三) (2) 飛騨道(野妻街道)(二七三) (3) 糸魚川街道(二七五) (4) 飛州新道(二七五) (5) 村の道路(二七六) 松本道(二七六) 広海道 山道 立田道その他 ロ庶民の旅(二七六) (1) 順礼の旅(二七六) (2) 農民の旅(二七六) 4 災害と騒動(二七六) イ自然災害(二七六) ロ凶作・飢饉(二七六) 寛永の飢饉(二七六) 延宝の飢饉 享保の飢饉 天明の飢饉 天保の飢饉 付貞享騒動(二八二) (1) 民間の記録と加助(二八二)

第三節 村落の成立

- 一 温村・明盛村の村落の成立(二八二) 1 三郷村の耕土分布(二八二) 2 黒沢川による原始開発(二八二) イ長尾・二木の開発(二八二) ロ 楡の開発(二八二) ハ久木の開発(二八二) ニ西中萱の開発(二八二) ホ西及木の開発(二八二) ヘ住吉神社と黒沢(二八二) 3 原始開発からみた黒沢・中房川・鳥川三扇状地の対比(二八二) 4 雨乞行事よりみた枅形神社・平福寺(二八二) 5 横沢堰による開発(二八二) 6 庄野堰による開発(二八二) イ計画開発の範囲(二八二) ロ二木開発の経緯(二八二) ハ水利権からみた二木村の開発(二八二) ニ一日市場の開発(二八二) ホ七日市場の開発(二八二) ヘ庄野堰と楡(二八二) ト二木の条里的遺構(二八二) チ庄野堰と及木(二八二) リ庄野堰と中萱(二八二) ヌ庄野堰と真々部(二八二) 7 中萱堰と中萱の開発(二八二) 8 及木堰と及木の開発(二八二) 9 成相堰(真鳥羽堰)と中萱の開発(二八二) 10 温堰による開発(二八二) イ開鑿の経緯(二八二) ロ男女沢と大妻・横沢・氷室 ハ大荒田堰と北大妻 ニ温堰と長尾・二木・楡・久木 ホ長尾堰と長尾・二木 ヘ荒堰と住吉野沢 ト小田多井堰と小田多井 11 藤の木・二木・及木・久木の呼称(二八二) 12 用水争論(二八二) 二 小倉の成立(二八二) 1 小倉という地名(二八二) 2 本村(二八二) 西牧氏の進出(二八二) 小倉城 里屋敷 社寺 あづま社 3 馬口(二八二) 中世以前(二八二) 馬口の地名 水田 社寺 4 大室(二八二) 5 室山(二八二)

第四節 村落の地名

- 一 小倉(二八二) 二 野沢(二八二) 三 上長尾(二八二) 四 下長尾(二八二) 五 楡(二八二) 六 住吉(二八二) 七 七日市場(二八二) 八 一日市場(二八二) 九 二木(二八二) 一〇 及木(二八二) 一一 中萱(二八二)

付 近世史料

- 一 長尾組大庄屋龜忠左エ門日記(二八二) 1 貞享元年日記(二八二) 2 貞享三年一月貞享騒動後在々百姓へ申渡(二八二) 3 貞享

四年薨忠左エ門日記(四九) 一 野沢村務台家庄屋年譜(三五)

1 年々雑事(三五) 2 公私年々雑事記(三九)

第五節 民俗…………… 四七

- 一 農事曆(四七) 二 年中行事(四三) (1) 事納め(四三)
- (2) 冬至 (3) 大抜い (4) 暮勘定 (5) 太子講 (6) 松飾り (7) 餅つき・お供え (8) 歳市・お歳暮 (9) 年男 (10) あらみたまおみたま (11) 年取り・大歳 (12) 初参り (13) 若水・福茶 (14) 元旦の食物 (15) 元旦の俗信 (16) おんばしら・おんべ (17) 年始 (18) 書初め (19) 初荷 (20) 湯殿始め・仕事初め (21) 初夢・三日日の年取り (22) 六日日の年取り (23) 七草・松送り (24) お八日の餅つき (25) 初市 (26) 若年 (27) 道具の年取り (28) 若木迎え (29) 物づくり (30) 果樹責め (31) 鳥追い (32) 厄落し (33) お賽日 (34) 三九郎 (35) 新春の門付芸 (36) 三河万歳 (37) 春駒 (38) 千俵 (39) 越後獅子 (40) 猿曳 (41) 六部 (42) 山の神 (43) 三峰講 (44) 二〇日正月 (45) 庚申講 (46) 旧年 (47) 伊勢講 (48) 節分 (49) 甘酒祭・八王子祭 (50) 初午 (51) 甲子講 (52) 八日餅 (53) やしろうま (54) 彼岸 (55) 社日 (56) 秋葉様 (57) 堰ざらい・道普請 (58) 桃の節句 (59) 花祭り (60) お不動様 (61) 観音様 (62) 端午の節句 (63) 天王様 (64) 土用丑の日 (65) 七夕 (66) お盆 (67) 盆花取り (68) 盆棚 (69) 高灯籠 (70) 新盆迎え (71) 迎え火 (72) 盆礼 (73) 盆勘定 (74) 盆年 (75) 盆市 (76) 中盆 (77) 本盆 (78) お賽日 (79) 盆踊り (80) 棚あげ (81) 送り火・精霊流し (82) 十五夜 (83) 菊の節句 (84) 天神講 (85) 十三夜 (86) 二十三夜 (87) 蚕玉あげ (88) 十日夜・かかしあげ (89) 七夕 (90) 三の祝 (91) 恵比寿講 (92) こぼしあげ・稲あげ (93) 秋の山の口 (94) 秋がしき (95) 金山講 三 結婚(四六) 付 婚姻圏(四三)

第三編 現代社会

第一章 政治・戸口…………… 四九

第一節 政治…………… 四九

- 一 小倉村(四九) 1 沿革のあらまし(四九) 2 村政の経過(五〇)
- 〇 二 温村(五〇) 1 戸籍法の施行と温村(五五) 2 町村の合併(五三) 3 町村の成立(五三) 4 明治後半の村政(五五)
- 5 大正期の村政(五五) 6 昭和前半の村政(五五) 三 明盛村(五七) 1 沿革のあらまし(五七) 2 村政の経過(五七)
- 四 三郷村の成立(五〇) 1 合併の経過の概要(五〇) 2 村名の由来(五二) 3 協議決定事項(五二) 4 新村建設計画(五三)
- 5 関係村概況表(五五)

第二節 戸口…………… 五五

- 1 戸口の推移(五五) 小倉村(五五) 温村(五五) 明盛村(五八)
- 2 戸口に関する諸事象(五〇) (1) 出寄留と入寄留(五〇) (2) 脱籍逃亡・失脚・所在不明・不詳等(五〇) (3) 死亡者の平均年齢と乳幼児死亡(五〇)

第二章 経済…………… 六三

第一節 総説…………… 六三

- 一 農林(六三) 1 明治維新前後(六三) 2 地券 3 村の指導者 4 農業の発展 5 繁栄と疲弊 6 経済更生 7 本土決戦 8 米かくせ 9 供出 10 日本再建の先兵 二 商工(六七)
- 1 農商の兼業(六七) 2 工業 3 企業整備 4 工業立県

第二節 農業…………… 六六

- 一 技術(六六) 1 農業の進歩(六六) 2 省力化と農具(六〇)

イ 明治初年代(四三) ロ 昭和二四年代(四三) 四 葬式(三七)

- 五 伝説(四〇) 1 黒沢小僧(四〇) 2 室山のデーラボツチャ 3 小豆ばばき 4 さべの泉 5 女しやぐうじ男しやぐうじ 6 加助の墓 7 平福寺の祭 8 いずな使い 9 地ころがし 六 方言(四二) (1) 天地季候(四二) (2) 鳥獣虫魚(四三) (3) 草木菌藻(四四) (4) 肢体健康(四七) (5) 服飾容姿(四八) (6) 飲食嗜好(四九) (7) 住居坐臥(四九) (8) 老幼男女(五〇) (9) 社会交通(五〇) (10) 生産消費(五三) (11) 行動性情(五三) (12) 事物時所(五三) (13) 農山漁村(五五) (14) 習俗信仰(五五) 七 子供の遊び(五〇) (1) 八 民謡(四六) 1 手まりうた(四六) 2 お手玉うた 3 子守うた 4 はねつきうた 5 ジャンケンの歌 6 子供の遊びうた 7 酒づくり歌 8 木遣どうつき歌 9 盆踊唄(四六) イ 安曇踊 ロ 七日市場区安曇盆唄 ハ 小倉盆唄

第六節 民間信仰…………… 五七

- 一 庚申信仰(五〇) 二 仏像(五三) 三 神祠堂宇(五七) 四 石神石仏等(五九) 付 道祖神(五八) (1) 道祖神の宝庫(五八) (2) 道祖神碑の現存数 (3) いつの造立が多いか (4) 双体像の姿態 (5) 碑石の大きさ (6) 碑石の形 (7) 添彫り (8) 道祖神の置かれている場所や向き (9) 雨雪に堪えて (10) 材石はどこから運ばれたか (11) 道祖神の祭

第七節 民家…………… 五九

- (1) 村の民家のなりたち(五九) (2) 農家の屋敷構え (3) 主家 (4) 入り口と支間 (5) 土間 (6) 間取り (7) 流しとかまど (8) 便所と風呂場 (9) 土蔵・板倉・文庫倉 (10) 門と塀

- 3 多肥農業(六三) 4 病虫害の防除その他(六三) 一 生産物(六四) 1 産物(六四) イ 作物(六四) 一 稲(六四) 二 麦類(六五) 三 雑穀(六五) 四 いも類(六五) 五 野菜類(六五) ロ 果樹(六八) ハ 特用作物その他(六五) 2 畜産(六五) (1) 家畜(六五) (2) 飼料(六五) (3) 家畜の保健衛生その他(六五) 3 蚕業(六五) 四 イ 養蚕業の変遷(六五) ロ 蚕種業(六五)

第三節 林業…………… 六三

- 一 小倉官林(六三) 1 小倉お林のころ(六三) 2 官林の範囲(六三) 3 管理(六三) 4 産物(六四) 5 委託林(六七) 二 共有林(六六) 1 入会(六六) (イ) 入会の地域とその管理(六六) (ロ) 部落有林野の統一 (ウ) その他の入会 2 北沢山林(六九) 3 黒沢山林(六九) 4 烏川村字野山二十四箇共有山林(七一)

第四節 鉱工業…………… 七三

- 一 鉱業(七三) (1) 地下資源の開発(七三) (2) 試掘願 (3) 創業 (4) その他 二 工業(七三) 1 工業の発展(七三) 2 発電(七三) 3 酒造(七四) イ 酒株のこと(七四) ロ 酒造の取締りハ 酒造の銘柄 ニ 戦前戦後の酒造業者 4 製糸業(七五) イ 糸師のこと(七五) ロ 生糸製造業 ハ 組合製糸 5 製材(七七) 6 その他(七六) イ 松だけの缶詰 ロ いもぢや・かじや ハ しみ豆腐 ニ 畳表 ホ 染色業 ヘ 足袋裏 ト 機械業 チ 竹細工 リ 下駄 ヌ わら工 ル かわら

第五節 商業…………… 七六

- 一 市場(七六) 明治以降の市場 馬市博覧会の開催 繭糸の市場 市神 二 商業一般(六〇) 1 販売品(六〇) 2 商業者 3 店 4 歩荷 5 商工団体

第六節 金融

- 一 旧来の金融(六四) 1 質屋(六四) 2 無尽・無尽講 二 開産社(六五) (1) 設立の趣旨(六五) (2) 開産社の成立 (3) 事業の概要 (4) 解散 三 銀行(六六) (1) 温銀行(六六) (2) 明盛銀行 (3) 南安銀行明盛支店 (4) 六十三銀行明盛支店 (5) 八十二銀行明盛支店 四 その他の金融(六九) 郵便局(六九)

六四

第七節 衣食住

- 一 衣(六九) 二 食(六九) 1 主食・副食物(六九) 2 米飯 三 住(六九) 1 いえ(六九) 2 母屋とくらし 3 付属建物 四 生活の改善(六九)

六九

第八節 経済関係諸問題

- 一 開拓(六五) 1 官林払下げと開墾(六五) 小倉官林の払下げ 開墾組合 組合の危機 開墾地の施設 移住者の招致 2 満州開拓(六九) 満州開拓義勇軍(六九) 満州開拓団(南安曇郡) 開拓民の活躍 終戦後の状況 開拓民の送還と援護 開拓団死没者 満州開拓義勇軍隊員の体験談(七〇) 3 上の原開拓(七〇) 4 鳴沢開拓と増反地開拓(七〇) 二 小倉開墾地の小作争議(七〇) 三 農地改革(七〇) 1 沿革(七〇) 2 第一次農地改革(七〇) 3 第二次農地改革(七〇) 4 農地改革の実施と成果(七〇) 5 農地改革時の農民と功罪(七〇)

六五

第九節 経済関係諸団体

- 一 農業協同組合(七〇) イ 村農会(七〇) ロ 産業組合の発祥のころ(七三) ハ 産業組合の成長(七四) ニ 農業会へ統合(七四) (一) 小倉村農業会(七五) (二) 温村農業会(七六) (三) 明盛村農業会(七七) ホ 農業協同組合の成立(七〇) ヘ 各村農業協同組合(七〇) (一) 小倉村農業協同組合(七〇) (二) 温村農業協同組合(七二) (三) 明盛村農業協同組合(七三) (四) 三組合の比較(七四) ト その他の組合(七四) (一) 養蚕組合(七四) (二) 蚕種同業組合(七五) (三)

七〇

第三節 鉄道

- 一 篠の井線(七五) 1 創設(七五) イ 招致運動(七五) ロ 開通 2 田沢駅(七五) 3 開通と地域の発展(七五) 二 中央線(七五) 1 創設(七五) 2 開通とその影響 三 信濃鉄道(七五) 1 創設(七五) 2 開通(七五) 3 その後の発展(七五) 4 電化(七五) 5 開通と地域の発展 四 一日市場駅(七五) 1 沿革(七五) 2 旅客・貨物輸送の変遷(七五) イ 旅客(七五) ロ 貨物 3 通運業(七五) 五 中萱駅(七五) 1 沿革(七五) 2 旅客・貨物の変遷 3 通運業 六 国鉄移管(七五) 1 大糸南線(松本〜中土)(七五) 2 大糸線(七五)

七五

第四節 郵便局

- 一 郵便制度のはじめ(七五) 二 郵便局(七五) 1 官制の改革(七五) 2 二等郵便局(七五) 3 特定郵便局 4 簡易郵便局 三 明盛郵便局(七五) 1 沿革(七五) 2 郵便区の変遷(七五) 3 業務の取扱(七五) イ 郵便(七五) ロ 為替貯金(七五) ハ 簡易保険及び郵便年金(七五) 4 電報・電話(七五) イ 電報(七五) (一) 電信事業 (二) 料金の変遷 (三) 電信区・配達区の変遷(四) 業務の取扱 ロ 電話(七五) (一) 電話事業 (二) 加入者の普及状況 (三) 業務の取扱 四 小倉郵便局(七六) 1 沿革(七六) 二 郵便局の設置運動 3 受持集配局の変遷 4 業務の取扱 五 電報の請負配達 五 温郵便局(七六) 1 沿革(七六) 2 業務の取扱 六 楡郵便局(七六) 1 沿革(七六) 2 郵便局の設置 3 業務の取扱

七五

- 長野県畜産農業協同組合南安曇支部(七五) (四) 一日市農業倉庫(七五) (五) 農業協同組合南安加工公社(七五) (六) 無限責任小倉協同信用販売購買利用組合(七五) (七) 中西萱農業協同組合(七五) (八) 農業共済組合(七五) 一 山林組合(七五) イ 北沢・黒沢(七五) ロ 森林組合(七五) 三 商工会(七五) 四 農業委員会(七五) イ 農地委員会(七五) ロ 農業調整委員会(七五) ハ 農業改良委員会(七五) ニ 農業委員会(七五) 五 官庁(七五) ハ 農業取締所豊科支所温出張所(七五) 長野県食糧事務所南安曇支所 明盛出張所(七五)

第三章 交通通信

第一節 道 路

- 一 明治時代の道路(七三) 1 主な道路(七三) 千国街道(七三) 保高道 西牧道 泉光寺道 御成街道 秀山街道 広街道 小倉市街道 日光寺街道 中塔道 小室道 田多井長尾道 長尾道 松本道 飛騨街道 小倉長尾道 牛街道 中萱市街道 三家街道 田中街道 その他の道路 2 山道(七五) 真々部山道(七五) 長尾山道 下長尾山道 二木山道 野沢山道 楡山道 住吉山道 中萱山道 小田多井山道 3 お林道(七五) 4 祭礼道(七五) 5 長尾前(七五) 6 道路調査(七五) 道路元標 7 道路・橋梁の改修整備(七五) 二 大正時代の道路(七三) 1 村道(七五) 2 郡道(七五) 3 県道(七五) 4 道路愛護(七五) 5 橋梁(七五) 三 昭和時代の道路(七五) 1 道路・橋梁の改修工事(七五) 2 黒沢川のえん堤工事(七五) 3 交通機関の発達と道路(七五) 4 山麓線(七五) 5 県道(七五)

七三

第二節 交通機関

- 一 諸車(七五) 1 駕籠(七五) 2 人力車(七五) 3 乗合馬車(七五) 4 荷車・リヤカー(七五) 5 運送車(七五) 6 自転車(七五)

七三

第四章 教育・文化

第一節 教 育

- 一 寺子屋(学制以前の教育)(七五) 二 小学校(七五) 1 学制発布と学校教育の発足(七五) イ わが村における小学校設立(七五) ロ 小学校設立当時の教育(七五) ハ 改正教育令による学校設立(七五) 2 小学校令期における本村の教育(七五) イ 本村尋常小学校の教育(七五) ロ 明盛組合高等小学校の創設と教育(七五) ハ 明治二〇年より明治四〇年における本村六小学校の校舍建築沿革(七五) ニ 明盛組合高等小学校沿革(七五) 3 義務制施行以後の就学状況と本村の就学対策(七五) イ 初期のころ(七五) ロ 就学の督励が強化される(七五) 付授業料(七五) ハ 就学の督励が一段と厳しくなる(七五) ニ 明治四一年度(義務制延長)以後の状況(七五) 4 温明尋常高等小学校・小倉尋常小学校の発足(明四一〜昭八)(七五) (一) 温明尋常高等小学校の校舍建築(七五) (二) 小倉尋常高等小学校の校舍建築(七五) (三) 新旧思想の対立(七五) (四) 不況時代と教員(七五) (五) 職員の研修(七五) 5 皇国民錬成と村の教育(昭九〜二〇)(七五) 6 戦後新教育の発足(七五) (1) 昭和二〇年度(七五) (二) 昭和三〇年度(七五) 三 新制中学校(七五) 1 小倉・温明両中学校の発足(七五) 2 瑞穂中学校への統合(八〇) 3 三郷中学校の誕生(八三) 四 青年の教育(八三) イ 女子補修科の発足(八三) ロ 農工補修学校の設立(八三) ハ 大正期の実業補習学校(八五) ニ 教練主眼の青年訓練所(八五) ホ 青年学校への統合(八六) 五 社会教育(八五) 1 公民館以前(八五) 2 公民館の活動(八〇) イ 公民館の誕生(八〇) ロ ナトコ映画(八三) ハ 公民館の充実(八三) ニ 三郷村公民館(八三)

七五

第二節 文 化

八三

- 1 文学(八三) イ短歌(八三) ロ俳句(八四) ハ雑俳・雑吟(八七)
- ニ 漢詩(八三) ホ 書道(八三) 2 美術(八三) イ 村とかかわる画家たち(八三) ロ 村内の物故した作家(八三) ハ 温明美術会(八三)

第三節 教育関係諸団体……………八五

- イ PTA(八三) (一) 温明学校父母と先生の会(八三) (二) 小倉学校父母と先生の会(八三) (三) 三郷中学校父母と先生の会(八三)
- ロ 青年団(八三) (一) 青年会のおこり(八三) (二) 若い衆仲間から青年会へ(八三) (三) 二木区青年会(八三) (四) 小倉・温明盛青年会から三郷村青年団へ(八三) (五) 青年団と図書館(八三) (六) 小倉青年図書館(八三) ハ 婦人会(八三) (一) 温明婦人会の創立と活動(八三) (二) 温明盛・小倉国防婦人会(八三) (三) 小倉村婦人会の創立と活動(八三)

第五章 厚生福祉……………八六

- 一 保健衛生(八六) 1 公衆衛生(八六) イ 伝染病(八六) (一) 法定伝染病(八六) (二) 届出伝染病(八六) ロ その他の疾病(八六) 2 環境衛生(八六) イ 飲用水(八六) ロ 清掃(八六) ハ 環境衛生関係営業(八六) 3 母子衛生(八六) イ 乳幼児の保健(八六) ロ 母性保護(八六) 4 医務(八六) イ 小倉村診療所(八六) ロ 本村在住の開業医(八六) ハ 助産婦(八六) 5 学童の体位・疾病異常(八六) イ 学童の体位(八六) ロ 学童の疾病異常(八六) ハ 今後の問題(八六) 二 社会福祉(八六) 1 恩賜財団済生会(八六) 2 軍人救護(八六) 3 一般救護と職業紹介所(八六) 4 方面委員制度と民生委員制度(八六) 5 生活保護(八六) 6 児童福祉と老人福祉(八六) 三 社会保障(八六) 1 医療保障(八六) イ 国民健康保険(八六) ロ 健康保険(八六) 2 老後保障(八六) イ 厚生年金(八六) ロ 国民年金(八六) 3 災害救助(八六)

第六章 治安・国防・消防……………八七

第一節 警察……………八七

- 1 警察制度の変遷(八七) 2 駐在所の設置と村民(八七) 3 犯罪の推移と傾向(八七)

第二節 国防……………八八

- 1 徴兵と兵役(八八) イ 徴兵制度のなりたち(八八) ロ 徴兵への認識(八八) ハ 徴兵検査の実施(八八) ニ 徴兵への対応(八八) ホ 入隊者の送迎(八八) 2 戦役と出征(八八) イ 戦役の発生と犠牲(八八) ロ 出征風景(八八) 付戦役者名簿(八八) 3 軍事援護(八八) イ 軍事援護のなりたち(八八) ロ 銃後の援護活動(八八) 4 公職追放と戦後処理(八八) イ 公職追放の実行(八八) ロ 軍事色の処分(八八) ハ 諸団体の結成(八八) 5 自衛隊(八八)

第三節 消防……………八七

- 1 消防のはじめ(八七) イ 自衛的消防(八七) ロ 村の消防(八七) 2 消防組(八七) イ 消防組設置(八七) ロ 消防組合規約標準(八七) ハ 地区消防組の発足(八七) (一) 野沢消防組(八七) (二) 上長尾消防組(八七) (三) 二木消防組(八七) (四) 小倉消防組(八七) ニ 金馬れん(八七) ホ その後の消防組活動(八七) 3 警防団(八七) イ 警防団設置(八七) ロ 女子警防隊発足(八七) ハ 団員の活動状況(八七) 4 消防団(八七) イ 消防団設置(八七) ロ 三郷村消防団発足(八七)

第七章 人物誌……………九二

- 多田加助(九二) 飯沼寛兵衛(九三) 竹内市郎兵衛(九三) 播隆(九三) 中村英碩(九四) 松岡平臣(九五) 中田又重郎(九五) 務台伴語(九六) 小松鉄巖(九七) 布山瑞枝(九七) 藤岡甚三郎(九八) 百瀬謙三(九八) 中沢染江(九八) 百瀬豊三郎(九八) 多田道弥(九八)

- 上嶋貞巖(九〇) 三沢力太郎(九三) 白木鉄平(九三) 森山儀文治(九三) 百瀬亥三松(九三) 松岡好一(九三) 塚田豊太郎(九三) 帯刀近二郎(九三) 白沢保美(九五) 降幡数太郎(九六) 岡村千馬太(九六) 二木柄伍(九七) 三村惣平(九六) 野本萱斎(九六) 小松脩(九六) 二木保幾(九三)

年表……………九三

あとがき……………九五

目次

第一章 概論……………一

第二章 地理……………二

第三章 歴史……………三

第四章 産業……………四

第五章 教育……………五

第六章 治安・国防・消防……………八七

第七章 人物誌……………九二

第八章 文化……………九六

第九章 民俗……………九九

第十章 交通……………一〇〇

第十一章 人口……………一〇一

第十二章 統計……………一〇二

第十三章 参考文献……………一〇三

第十四章 索引……………一〇四

第十五章 附録……………一〇五

第十六章 謝辞……………一〇六

第十七章 後記……………一〇七

第十八章 参考文献……………一〇八

第十九章 索引……………一〇九

第二十章 附録……………一一〇

第二十一章 謝辞……………一一一

第二十二章 後記……………一一二

第二十三章 参考文献……………一一三

第二十四章 索引……………一一四

第二十五章 附録……………一一五

第二十六章 謝辞……………一一六

第二十七章 後記……………一一七

第二十八章 参考文献……………一一八

第二十九章 索引……………一一九

第三十章 附録……………一二〇

第三十一章 謝辞……………一二一

第三十二章 後記……………一二二

第三十三章 参考文献……………一二三

第三十四章 索引……………一二四

第三十五章 附録……………一二五

第三十六章 謝辞……………一二六

第三十七章 後記……………一二七

第三十八章 参考文献……………一二八

第三十九章 索引……………一二九

第四十章 附録……………一三〇

第四十一章 謝辞……………一三一

第四十二章 後記……………一三二

第四十三章 参考文献……………一三三

第四十四章 索引……………一三四

第四十五章 附録……………一三五

第四十六章 謝辞……………一三六

第四十七章 後記……………一三七

第四十八章 参考文献……………一三八

第四十九章 索引……………一三九

第五十章 附録……………一四〇

第五十一章 謝辞……………一四一

第五十二章 後記……………一四二

第五十三章 参考文献……………一四三

第五十四章 索引……………一四四

第五十五章 附録……………一四五

第五十六章 謝辞……………一四六

第五十七章 後記……………一四七

第五十八章 参考文献……………一四八

第五十九章 索引……………一四九

第六十章 附録……………一五〇

第六十一章 謝辞……………一五一

第六十二章 後記……………一五二

第六十三章 参考文献……………一五三

第六十四章 索引……………一五四

第六十五章 附録……………一五五

第六十六章 謝辞……………一五六

第六十七章 後記……………一五七

第六十八章 参考文献……………一五八

第六十九章 索引……………一五九

第七十章 附録……………一六〇

第七十一章 謝辞……………一六一

第七十二章 後記……………一六二

第七十三章 参考文献……………一六三

第七十四章 索引……………一六四

第七十五章 附録……………一六五

第七十六章 謝辞……………一六六

第七十七章 後記……………一六七

第七十八章 参考文献……………一六八

第七十九章 索引……………一六九

第八十章 附録……………一七〇

第八十一章 謝辞……………一七一

第八十二章 後記……………一七二

第八十三章 参考文献……………一七三

第八十四章 索引……………一七四

第八十五章 附録……………一七五

第八十六章 謝辞……………一七六

第八十七章 後記……………一七七

第八十八章 参考文献……………一七八

第八十九章 索引……………一七九

第九十章 附録……………一八〇

第九十一章 謝辞……………一八一

第九十二章 後記……………一八二

第九十三章 参考文献……………一八三

第九十四章 索引……………一八四

第九十五章 附録……………一八五

第九十六章 謝辞……………一八六

第九十七章 後記……………一八七

第九十八章 参考文献……………一八八

第九十九章 索引……………一八九

第一百章 附録……………一九〇

第一〇一章 謝辞……………一九一

第一〇二章 後記……………一九二

第一〇三章 参考文献……………一九三

第一〇四章 索引……………一九四

第一〇五章 附録……………一九五

第一〇六章 謝辞……………一九六

第一〇七章 後記……………一九七

第一〇八章 参考文献……………一九八

第一〇九章 索引……………一九九

第一一〇章 附録……………二〇〇

第一一一章 謝辞……………二〇一

第一一二章 後記……………二〇二

第一一三章 参考文献……………二〇三

第一一四章 索引……………二〇四

第一一五章 附録……………二〇五

第一一六章 謝辞……………二〇六

第一一七章 後記……………二〇七

第一一八章 参考文献……………二〇八

第一一九章 索引……………二〇九

第一二〇章 附録……………二一〇

第一二一章 謝辞……………二一一

第一二二章 後記……………二一二

第一二三章 参考文献……………二一三

第一二四章 索引……………二一四

第一二五章 附録……………二一五

第一二六章 謝辞……………二一六

第一二七章 後記……………二一七

第一二八章 参考文献……………二一八

第一二九章 索引……………二一九

第一三〇章 附録……………二二〇

第一三一章 謝辞……………二二一

第一三二章 後記……………二二二

第一三三章 参考文献……………二二三

第一三四章 索引……………二二四

第一三五章 附録……………二二五

第一三六章 謝辞……………二二六

第一三七章 後記……………二二七

第一三八章 参考文献……………二二八

第一三九章 索引……………二二九

第一四〇章 附録……………二三〇

第一四一章 謝辞……………二三一

第一四二章 後記……………二三二

第一四三章 参考文献……………二三三

第一四四章 索引……………二三四

第一四五章 附録……………二三五

第一四六章 謝辞……………二三六

第一四七章 後記……………二三七

第一四八章 参考文献……………二三八

第一四九章 索引……………二三九

第一五〇章 附録……………二四〇

第一五一章 謝辞……………二四一

第一五二章 後記……………二四二

第一五三章 参考文献……………二四三

第一五四章 索引……………二四四

第一五五章 附録……………二四五

第一五六章 謝辞……………二四六

第一五七章 後記……………二四七

第一五八章 参考文献……………二四八

第一五九章 索引……………二四九

第一六〇章 附録……………二五〇

第一六一章 謝辞……………二五一

第一六二章 後記……………二五二

第一六三章 参考文献……………二五三

第一六四章 索引……………二五四

第一六五章 附録……………二五五

第一六六章 謝辞……………二五六

第一六七章 後記……………二五七

第一六八章 参考文献……………二五八

第一六九章 索引……………二五九

第一七〇章 附録……………二六〇

第一七一章 謝辞……………二六一

第一七二章 後記……………二六二

第一七三章 参考文献……………二六三

第一七四章 索引……………二六四

第一七五章 附録……………二六五

第一七六章 謝辞……………二六六

第一七七章 後記……………二六七

第一七八章 参考文献……………二六八

第一七九章 索引……………二六九

第一八〇章 附録……………二七〇

第一八一章 謝辞……………二七一

第一八二章 後記……………二七二

第一八三章 参考文献……………二七三

第一八四章 索引……………二七四

第一八五章 附録……………二七五

第一八六章 謝辞……………二七六

第一八七章 後記……………二七七

第一八八章 参考文献……………二七八

第一八九章 索引……………二七九

第一九〇章 附録……………二八〇

第一九一章 謝辞……………二八一

第一九二章 後記……………二八二

第一九三章 参考文献……………二八三

第一九四章 索引……………二八四

第一九五章 附録……………二八五

第一九六章 謝辞……………二八六

第一九七章 後記……………二八七

第一九八章 参考文献……………二八八

第一九九章 索引……………二八九

第二〇〇章 附録……………二九〇

第二〇一章 謝辞……………二九一

第二〇二章 後記……………二九二

第二〇三章 参考文献……………二九三

第二〇四章 索引……………二九四

第二〇五章 附録……………二九五

第二〇六章 謝辞……………二九六

第二〇七章 後記……………二九七

第二〇八章 参考文献……………二九八

第二〇九章 索引……………二九九

第二一〇章 附録……………三〇〇

第二一一章 謝辞……………三〇一

第二一二章 後記……………三〇二

第二一三章 参考文献……………三〇三

第二一四章 索引……………三〇四

第二一五章 附録……………三〇五

第二一六章 謝辞……………三〇六

第二一七章 後記……………三〇七

第二一八章 参考文献……………三〇八

第二一九章 索引……………三〇九

第二二〇章 附録……………三一〇

第二二一章 謝辞……………三一〇

第二二二章 後記……………三一〇

第二二三章 参考文献……………三一〇

第二二四章 索引……………三一〇

第二二五章 附録……………三一〇

第二二六章 謝辞……………三一〇

第二二七章 後記……………三一〇

第二二八章 参考文献……………三一〇

第二二九章 索引……………三一〇

第二三〇章 附録……………三一〇

第二三一章 謝辞……………三一〇

第二三二章 後記……………三一〇

第二三三章 参考文献……………三一〇

第二三四章 索引……………三一〇

第二三五章 附録……………三一〇

第二三六章 謝辞……………三一〇

第二三七章 後記……………三一〇

第二三八章 参考文献……………三一〇

第二三九章 索引……………三一〇

第二四〇章 附録……………三一〇

第二四一章 謝辞……………三一〇

第二四二章 後記……………三一〇

第二四三章 参考文献……………三一〇

第二四四章 索引……………三一〇

第二四五章 附録……………三一〇

第二四六章 謝辞……………三一〇

第二四七章 後記……………三一〇

第二四八章 参考文献……………三一〇

第二四九章 索引……………三一〇

第二五〇章 附録……………三一〇

第二五一章 謝辞……………三一〇

第二五二章 後記……………三一〇

第二五三章 参考文献……………三一〇

第二五四章 索引……………三一〇

第二五五章 附録……………三一〇

第二五六章 謝辞……………三一〇

第二五七章 後記……………三一〇

第二五八章 参考文献……………三一〇

第二五九章 索引……………三一〇

第二六〇章 附録……………三一〇

第二六一章 謝辞……………三一〇

第二六二章 後記……………三一〇

第二六三章 参考文献……………三一〇

第二六四章 索引……………三一〇

第二六五章 附録……………三一〇

第二六六章 謝辞……………三一〇

第二六七章 後記……………三一〇

第二六八章 参考文献……………三一〇

第二六九章 索引……………三一〇

第二七〇章 附録……………三一〇

第二七一章 謝辞……………三一〇

第二七二章 後記……………三一〇

第二七三章 参考文献……………三一〇

第二七四章 索引……………三一〇

第二七五章 附録……………三一〇

第二七六章 謝辞……………三一〇

第二七七章 後記……………三一〇

第二七八章 参考文献……………三一〇

第二七九章 索引……………三一〇

第二八〇章 附録……………三一〇

第二八一章 謝辞……………三一〇

第二八二章 後記……………三一〇

第二八三章 参考文献……………三一〇

第二八四章 索引……………三一〇

第二八五章 附録……………三一〇

第二八六章 謝辞……………三一〇

第二八七章 後記……………三一〇

第二八八章 参考文献……………三一〇

第二八九章 索引……………三一〇

第二九〇章 附録……………三一〇

第二九一章 謝辞……………三一〇

第二九二章 後記……………三一〇

第二九三章 参考文献……………三一〇

第二九四章 索引……………三一〇

第二九五章 附録……………三一〇

第二九六章 謝辞……………三一〇

第二九七章 後記……………三一〇

第二九八章 参考文献……………三一〇

第二九九章 索引……………三一〇

第三〇〇章 附録……………三一〇